

相馬だより～復興支援報告～ 第2回

広島支部 福馬 晶子

私は、本年4月より1年間の予定で相馬市の災害協力派遣職員として働いています。前回に引き続き、被災地相馬について、江戸時代末期までの歴史と風土・自然・人について紹介します。

1. 江戸時代まで

相馬は、縄文・弥生時代から人が住んでいました。鎌倉時代に下総国相馬郡を所領していた相馬氏が、文治5年（1189年）、源頼朝の奥州平定に従軍し、その功績によって奥州行方郡を与えられ、南北朝末期に移住して領有権を拡大していきました。近隣の伊達との決戦も有名で、伊達領に近い現在の相馬市の中心部に当たる中村氏の中村城に城を移したのは、慶長16年（1602年）。そこで江戸開府から明治まで長らえ、相馬中村は城下町として醸成されました。



■中村城下絵図(元禄絵図)

2. 江戸時代の災害（飢饉）復興、御仕法政策

江戸時代末期に天明の飢饉（1782～1788年）や天保の飢饉（1833年）など、大規模な天災があり、元禄・正徳・享保の盛時には約9万人に達していた人口が、天明の飢饉後は、約3万6千人に激減。藩では天明4年（1784年）に幕府から5千両を借り入れ、移民を引き入れることなどで回復に努めましたが、幕府からの借金が30万両を超え、人口的にも経済的にも危機を迎えていました。

藩政を立て直すため二宮尊徳の1番弟子である相馬藩士・富田高慶は、相馬藩で報徳仕法に基づく御仕法（二宮尊徳の教えの至誠、勤労、分度、推譲を元に、具体的な自助努力や協働の方法まで定めているもの）により、財政再建政策を担いました。御仕法政策は弘化2年（1845年）から明治4年（1872年）の廃止までの27年間行われ、領内3郡226村のうち101村で実施。55村を完了し、江戸末期の政策廃止後は明治10年に会社組織である「興復社」を起し、報徳の教えに基づく開拓を進めました。災害時の経済的に恵まれない藩の事業

として、少ない予算で、農民主体で行う災害復旧として、経済的にも、人口増加政策、意欲向上としても効果があったようです。

農村部では、御仕法造（藩からの表彰で与えられる農家住宅からきている）と呼ばれる農家が建築されました。



■農村部の風景。「イグネ（伊久根）」と呼ばれる屋敷森が見えますが、南相馬などでは今回の放射能汚染で切り倒されるという悲哀に遭っています。



■農家住宅。兜造り・越屋根の母屋、置屋根の蔵が印象的。元は、母屋は茅葺、蔵の腰壁は木が主流。

報徳の教えには、至誠、勤労、分度、推譲がありますが、推譲は分度という現状認識の上に立った、分に応じて儉約をすることにより将来などに譲ることを推し進めるという意味で、現在のボランティアにも通じます。二宮尊徳が仕えていた小田原藩桜町領で洪水が起きた時に、報徳仕法で恩を感じている相馬から災害ボランティアを送り、復興の手助けをしたという事例もあるそうです。その思想は現在にも生かされ、二宮尊徳の教えに関連する市町同士で防災協定を組み、市民レベルで復興支援としてフォーラムを行ったり、ボランティアを送ったりするなどの助け合いとして、現在に通じています。

次回は、明治以降の歴史・風土、今回の震災の影響について。

MONTHLY 建築士
No.77

HIROSHIMA



表紙写真について

築百年の民家・ゲストハウスに再生
welcome さこちゃん・ち

- 設計監理／建築設計 LEFT HANDS 一級建築士事務所
- 施 工／(株)坪島総合建設
- 所 在 地／庄原市大久保町
- 構造規模／木造 2 階建
- 工事期間／2011年10月～2012年4月



傾いた柱を起こすことから始まり、築百年の木組みを利用して、柱・梁の増設・取り換えを行いました。世代ごとに改造された部分を取り払い、建設時に近い形で復元。さらに使えるものは再利用することを心掛けて取り組みました。

玄関の腰掛け兼踏み台を上がると、庭に面して縁側・3つの客間があります。昔の風情を残すため、今回は美装のみを行いました。建設当時の土間と囲炉裏空間は、ゲストハウスの集いの場として再生。玄関から合わせて36畳の昔のままの空間は、煤で黒くなった木組みを見上げることができます。さらには母屋と増築棟をつなぐ

ブリッジからは、家を支えてきた梁を見て・触れることもできます。

ストックされていた薪の利用とこれからの山の整備を考えて、集いの場にストーブが設置されました。囲炉裏の代わりとなり、空間を暖めます。

まずは家族が住まい・集まりたくなる場所として、次に縁のある方々に来ていただける場所として、空間づくりのお手伝いをさせていただきました。この冬は先代の残された薪にオーナーが火を点けて、縁のある人たちが空間を暖めます。

榎宜元 文子

ぷろじえくと ニュース PROJECT NEWS

●交流見学会

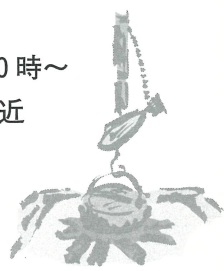
社会活動委員会 女性部会

福山市沼隈町横倉で、恒例の女性部会交流見学会を開催します。横倉は「平家の谷」と呼ばれており、築350年の民家が現存する集落です。

晩秋の横倉で平家の落人伝説のロマンを感じながら、「村川邸」「長谷部邸」「岡崎邸」を見学します。当日は古民家の保存と再生に取り組んでいるNPO法人「ぬまくま民家を大切にす会」の方に説明をしていただく予定です。

日 時：11月25日(日) 10時～

集合場所：福山市沼隈町横倉付近



●「森の木が家になるまで」見学会

広島支部

木造の家づくりを学ぶため、日ごろは見ることでできない森の中を訪ね、生育した杉の木が切り倒される様子から製材までの工程と、最後には木材をふんだんに使った建物を見学します。

今、建築士は、耐久性の高い木材の利活用により、住宅品質、自然エネルギーを利用した室内環境、適正な価格、時代に合った豊かな住まい方、地場生産システムの構築など、木造住宅に関わるさまざまな課題に就いていかなければなりません。参加者の皆さんが木材・木造の知識を得て、広島気候・風土に配慮した暮らしやすい家づくりを行う一助になればと思います。

日 時：12月1日(土) 10時～16時予定

CPD認定プログラム(11月～2013年1月の広島県内実施分)

10月16日現在

日 時	プログラム名	単 位	主 催	連絡先
11/7	平成24年度 建築士定期講習(福山)	6	広島県建築士会	082-244-6830
11/8	木のいえづくりセミナー	5	木構造振興株式会社	03-5282-8073
11/9	正しい省エネ住宅の造り方～ゼロエネ住宅に向けてすべき事	3	(株)アミノ	0848-20-2195
11/10	「内訳書の作成と値入」講習会	6	日本建築積算協会	082-221-9759
11/10	建築空間の試みー村上徹が語るこれまでの30年そしてこれからー	3	NPOテクノレジェンド宝の山	082-401-5559
11/13	建築関係講習会「開発申請許可制度」「建築物の定期報告制度」	2	広島県建築士会福山支部	084-923-4820
11/15	ここが知りたい勉強会「舞台機構工事」	2	日本建築積算協会	082-221-9759
11/16	木質建築(木材会館の事例)講演会	2	広島県木造組合連合会	082-253-1433
11/16	省エネ最新住宅設備	2	広島県建築士会呉地区支部	0823-25-0230
11/17	～「どんぶり勘定」と積算データ～「概算」講習会	3	日本建築積算協会	082-221-9759
11/17	～日本に伝わる木の建物と建築積算～「木造建物の積算」講習会	3	日本建築積算協会	082-221-9759
11/17	わかりやすい省エネ法～住宅・建築物	2	広島県建築士会福山支部	084-923-4820
11/25	住宅建築コーディネーター認定講習	6	住宅建築コーディネーター協会	06-6479-0766
11/29	鉄筋継手の品質確保のための施工管理	3	日本鉄筋継手協会	03-3230-0981
12/1	講演会「施工時に生じる不具合とその対策他」	2	日本コンクリート工学会中国支部	082-921-6482
12/1	第6回鋼構造シンポジウム「新しい鋼構造接合部設計法」	2	日本建築学会	082-921-5413
12/6	被災建築物応急危険度判定士講習	3	広島県建築士会	082-244-6830
12/7	ここが知りたい勉強会「クリーンルーム工事他」	2	日本建築積算協会	082-221-9759
12/8	「建築積算士」更新講習	4	日本建築積算協会	082-221-9759
12/14	平成24年度公共建築工事の積算講習会	5	経済調査会	03-3542-9291
1/17	施工管理者等のための足場点検実務者研修 in 広島第3回	4	建災防広島県支部	082-228-8250

株式会社 ティーエス ハマモト

一級建築士事務所 ISO9001 認証取得



大規模修繕工事
各種環境対応事業
調査 診断 設計 施工

〒731-0135 広島市安佐南区長束4丁目16-2
TEL 082-238-1511 FAX 082-238-1513

指定確認検査機関
(中国地方整備局長指定第1号)

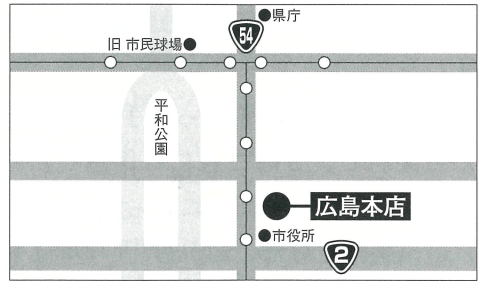
登録住宅性能評価機関
(中国地方整備局長登録第5号)

登録建築物調査機関
(中国地方整備局長登録第1号)



ハウスプラス中国住宅保証株式会社

〒730-0042 広島市中区国泰寺町1丁目3番32号
TEL: 082-545-5607(代表) FAX: 082-545-5608



地域だより 呉市民会館見学会

呉 呉地区支部 研修委員会 田口 雄敏

10月7日、呉地区支部まちづくり委員会の主催により、呉市民会館の見学会を行いました。呉市民会館は、1962年に坂倉準三氏の設計により建築され、今年で50年が経ちました。新市庁舎建て替えに先立ち10月から解体工事が始まりますので、解体を前に、貴重な建物であるとの認識から見学会を行ったものです。

見学会では、完成当時の図面と平成3年に改修を行った図面、当時の写真、坂倉準三氏についての資料が配布されました。完成当時の図面を見ながら建物を見学し、当時のままの仕様のもの、改修工事によって部屋の用途や間取りが変わった所などを見学しました。竣工当時は結婚式場があったこと、舞台の前にオーケストラピットがあったことなど、見学会で初めて知ったことが多く、

驚きました。

呉市民会館は50年間という長い間、市民に親しまれてきた建物です。解体されることは残念ではありますが、過去・現代・未来へとまちが変化していく中で、今回のように、先輩たちが造られた貴重な建物を見学し、記憶に残すことにより、これからのまちづくりのヒントにすることができればいいのではないかとも思いました。



証明書」を渡すと、うれしそうに写真に納まっていた。2日間で90人の小学生が作製してくれたこの模型は、11月10日～11日に行われる建築作品展“創り人”（広島市佐伯区隅の浜2-1-7 藤田ビル）で展示されます。



地域だより 東広島「酒まつり」に参加して

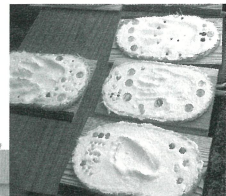
東広島支部 青年・女性委員会 平田 光弘

10月6日、7日に開催されました東広島市のビッグイベント「酒まつり」に、東広島支部青年・女性委員会も恒例のチャリティ事業として参加しました。天候にも恵まれ、2日間で24万人の来場者があり、大いに賑わいました。

7年目となる漆喰を使った手形の作成は好評で、10時から開店し、3時ごろには用意した約250枚がなくなりました。例年は初日に行っていましたが、今回は2日目の出店となったことから、「今年はやってないか。残念じゃねえって、子どもと話しとったんよ」、と言っ

てくださる常連さんもあり、毎年楽しみに来店いただいている方がいらっしやることを実感しました。

これからも建築士会と市民、また会員のより良い交流の場として継続していければと思っています。



社会活動委員会 青年部会・女性部会活動 石巻を訪れて

あの未曾有の大震災から1年半。被災地にノコノコと行くべきでない、被災し悲しみを抱えた地域にカメラを向けることはできない…いろいろな意見に逡巡していた私たちに、「とにかく来て、見て、知って下さい。そして現状を発信して下さい」、そう言って下さった石巻の方に背中を押され、9月15・16日の2日間、青年部会・女性部会の有志11名で、石巻へ行ってきました。

目の前に広がる全てを失った地域。その中にそびえる廃棄物の山。右手に廃車、正面にガレキ、その横には廃材や流木、そして少し離れた所にまたガレキの山。廃墟と化した建物がそのままの形で放置され、建物を失って基礎だけがかろうじて残る場所や、焼けただれ苦悩を今に残す校舎もありました。草に覆い隠され、説明をしてもらわなければのどかな田園風景とさえ見える光景もあります。福島原発報道の影に隠れ、伝えられない被災地の今の姿がそこにありました。

そんな中、生活を立て直そうと努力している人々がいます。仮設のプレハブで、トレーラーハウスで、そして被災した建物を補修して、それぞれに前を向いて生活を再建しようとお店を開いている人たちです。今回、「ZENKAI商店街」の方たちから被災と復旧の話を伺うことができました。報道されていないいろいろなことについて本当の声を聞くことができ、世間の多くの人たちが思っているであろうことと、現実との違いを知ることができました。今回の訪問では3つの目的を設定。

- ・現 実 を 知 る → 被災及び復興の現状
- ・仮設について知る → 女川町の仮設住宅
- ・復興について知る → ZENKAI商店街 他

残念ながら女川はイベントが開催される日と重なり、行くことができませんでしたが、現実を知ることと復興について知ることができたと思います。

そして、現地に行って学んだことをどう生かしていくのか。「もう頑張れません。地元にはそんな体力は残ってないんです」と、

社会活動委員会 女性部会 家頭 昌子

寂しそうに笑った視組合の方。これが現実です。1年半が経過し、今もなお、被災地は苦しみもがき続けているということを忘れてはいけません。建築士として職能を生かした貢献を考える前に、人として今できること、今しなくてはいけないことを考え、できることから発信していく必要性を感じました。

被災地の支援は、これからが1番大切な時。今何ができるのか、青年・女性部会として、建築士として、一人の人間として、考えていきたいと思います。

人にやわらかいビル。

TAKENAKA CORPORATION

私たちがめざしているのは
人の感性にもっとやさしく触れてくる街。
そのために、建築の領域を大きく広げ
それぞれの最先端技術に磨きをかけています。

想いをかたちに

竹中工務店

お問い合わせは 広報部へ
〒136-0075 東京都江東区新砂1丁目1-1 Tel.03(681)05140
〒541-0053 大阪府中央区本町4丁目1-13 Tel.06(6263)5605

www.takenaka.co.jp

既存建築物の耐震診断・改修計画判定業務を行っています (既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会加入)

- 指定確認検査機関
- 登録住宅性能評価機関
- 登録建築物調査機関
- 適合証明業務(フラット35)
- 住宅瑕疵担保責任保険業務
- 調査診断業務(耐震診断等)
- 住宅エコポイント関連業務

- 指定構造計算適合性判定機関
- 長期優良住宅認定審査業務
- 耐震診断判定業務

URL <http://www.jesupport.jp/>

本社〒730-0029 広島市中区三川町7-1
SK広島ビル4F

TEL:082-546-1378 FAX:082-249-7190

e-mail: mail@jesupport.jp

支店:東京・札幌 営業所:呉

皆様に、より良いサービスの提供に努めてまいります。



株式会社 ジェイ・イー・サポート

代表取締役 石 山 講